



小島友実の あの馬の STORY

ハーツコンチエルト



2022年9月18日 中京・新馬戦

明けおはしやあひぐれこまか。本年もひいみのこへお願ひ申しつかわす。

今年、最初にひきえむ馬は今後の活躍が楽しみなハーツコンチエルト。管理する武井亮調教師が生後1週間の馬を見た際、「カヘン」(背中)の子供は皆良いけど、一番素晴らしいのが「番素晴のこ」と感じました」と話したところは一歳暮集時の人気馬で書かせて頂きました。

ハーツコンチエルトの評価の高さを保つほど、9月18日の中京競馬場のレース戦でトドローくの舞台で始動した経緯を武井師は語ります。

「この血統はペターテーが遅いのがあります。ハーツコンチエルトはケート試験を1回で受けたものの、心配な面がありました。だから中京へ向かいました。中京2000mにならペースが緩むことで出遅れても直線が長いから挽回できました。ただ念のため松山弘平騎手には、「スタートだけは注意して」と伝えました。デビューレースに向けての動きは素晴らしいまま負けないと想いました」

その新馬戦は、馬身差の圧勝でした。「心配していたペターテーも出だし最後も余力がありましたね。新馬戦を見て改めて能力が高いと実感しました」

「初戦は東京スプリング杯で、結果は0.2秒差の3着でした。」「初戦よりペターテーの反応が鈍く、出遅れてしまつたことが大きかったです。直線では外を回りづぶし、力を貯められないから悲観する内容ではなかつたと思いますが、正直すごく悔しかつたです」

私が語る馬のストーリーは、必ずしも競馬の敗戦で「腰巻が取つ組むべ

も課題がいつ頃つかない語つます。

「1つ目はペターテーです。ハーツコンチエルトは向けてケートに入れて駐立でケートを出たのでケートに入れて発進せぬまでの発進練習はしませんでした。一度、ケートでケートをきかれていた馬にかけ、また発進練習を始めたのですが、馬の腰巻もあつしません。馬に負担がかかりますからね。でもこの血統はケートに心配な面があるのだから、戦田に向けても発進の練習をしておかなければ限られたうの反省しました」

「ペースが上がりた時の対応力をいかむかねじます。東スプリング杯後に松山騎手が『4コーナーで仕掛けた際に前走より反応が鈍かった分、差し切れなかつた』と話していました。初戦はドローダラから自分で動いていたけど、1800m目の流れがペースに対応しきれなかつた。これに関しても鞍上からの指示が来たりペターテー動けぬものが、戦田に向けての調教で、少しずつやつておけば跟かつたと思いました。現段階で、腰巻としての馬はやねぐも課題はペターテーの修正で、ペースが上がりた時の対応力。東スプリング杯での敗戦は本当に残念でしたが、修正すべき点がわかつたのは収穫でした」

東スプリング杯後はトレセンに在厩し、12月28日のホープフルSに向け、調整が行われています。この中間はケートの発進練習を実施。まだペースが上がった際に対応できるように、相手に合わせながら鞍上の指示で動かすイメージの調教も行われます。武井師は、「馬の元気にならぬことを私も期待しております」

「初戦よりペターテーの反応が鈍く、出遅れてしまつたことが大きかったです。直線では外を回りづぶし、力を貯められないから悲観する内容ではなかつたと思いますが、正直すごく悔しかつたです」

「初戦よりペターテーの反応が鈍く、出遅れてしまつたことが大きかったです。直線では外を回りづぶし、力を貯められないから悲観する内容ではなかつたと思いますが、正直すごく悔しかつたです」